

私の「最期」に関するお願い（覚書）

私は、妻の最期を見て、自分の時にはこうしてほしいと決めています。長女の陽子、そしてお世話になっている先生方、どうか私のわがまを聞いてください。

【私の基本ルール】

- ・機械に繋がれて生きるのは、私にとっては「生きている」ことにはなりません。
- ・「もうダメだ」となったら、無理に寿命を延ばすことはしないでください。
- ・その代わりに、苦しいのや痛いのは、薬でしっかり取ってください。

【具体的な希望】

- ・心臓がとまったとき、心臓マッサージはしないでください。あばらが折れるまでたたかたくはありません。
- ・息ができなくなったとき、喉に管を入れる「人工呼吸器」は絶対に拒否します。
- ・食べられなくなったとき、鼻からチューブを入れたり、胃に穴を開ける「胃ろう」はしないでください。
- ・点滴は、パンパンにむくむだけならしないでください。
- ・肺炎などになったとき、苦しくない程度に治療してください。強い抗生剤や強い薬を何本も打つのはお断りです。
- ・痛みが強いときは、麻薬でもなんでも使って、とにかく意識がなくなるくらい眠らせてもらっても構いません。

～陽子へ～

お前の判断が、私の判断です。先生たちに何か聞かれたら、「お父さんはこう言っていた」と自信を持って言ってほしい。お前のせいじゃない。私が自分で決めたことなんだからな。頼むな。

2XXX-3年 Y月 Z日

SOOOO